

15 乳歯根の異常とその周囲に歯牙腫を伴った一症例

○塚本末廣 久芳陽一 副島嘉男  
本川 渉  
福岡歯科大学小児歯科学講座

乳歯に関連した歯牙腫の報告は非常に少ない。しかも歯牙腫の一部が乳歯根と癒着していると思われる極めて稀な症例に遭遇したので報告する。

【症例】8歳7カ月の女兒

【主訴】上顎右側中切歯の萌出遅延

【家族歴】特記事項なし

【既往歴】特記事項なし

【全身所見】体格は中等度で、栄養状態は良好。

【口腔内所見】初診時 HellmanⅢA期。上顎左側中切歯は正常に萌出していたが、上顎右側は乳中切歯が残存していた。

【X線所見】乳歯根の周辺には歯牙腫様硬固物を数片認めた。

【処置】局所麻酔下で上顎右側乳中切歯と歯牙腫様硬固物を摘出した。歯牙腫様硬固物は容易に摘出できた。

【摘出物所見】抜去乳歯には歯根の舌側に、米粒大の凹凸ある隆起を認めた。

摘出した歯牙腫様硬固物は大小4個であった。

【病理組織学的所見】乳歯根の隆起物は歯牙腫が癒着および癒合を思わせる所見を呈していた。4個の硬固物は歯牙腫であった。

16 早期に萌出した下顎右側第1乳臼歯の1症例

○田中美絵子 一木数由 尾崎正雄 本川渉  
福岡歯科大学小児歯科学講座

乳臼歯部における先天性歯や早期萌出例は、比較的多く認められるが、乳臼歯部におけるそれらの報告は、少ない。

今回、福岡歯科大学附属病院小児歯科外来を訪れた生後5ヵ月の女兒において、第1生歯として下顎右側第1乳臼歯の早期萌出を認めたので、報告する。

症例 平成元年6月22日生まれ 女兒

初診 平成元年7月13日(生後3週)

主訴 下顎右側第1乳臼歯相当部歯肉の膨隆を主訴として当科に来院した。

家族歴 父母ともに、特記すべき事項はない。

既往歴 母親の妊娠中の経過は、良好で、11ヵ月分娩は頭位正常分娩であった。

生下時体重3072g、身長51.0cm  
胸囲32.5cm、頭位32.5cmであった。

現病歴 生後3週で下顎右側第1乳臼歯相当部歯肉に膨隆を認めたが、発赤はなく、触診において弾性硬であった。生後5ヵ月目において舌側咬頭より萌出を開始し、1歳0ヵ月の現在咬合面は、歯肉縁上に萌出している。なお、萌出歯牙は上下顎乳前歯と観察中の下顎右側第1乳臼歯である。

全身及び顔面所見において特記すべき事項はなく現在経過観察中である。